

教育研究セミナーに参加された先生方から寄せられた感想を一部ご紹介いたします。

日々の授業のために



アイデアが湧いてきました

生徒のよくあるミスや解答例を多く紹介して下さるので、指導の在り方に焦点があたりとても役に立ちました。凝り固まった頭が柔らかくなり、アイデアが湧いてきました。



現場とリンクしやすかった

生徒の「分からない」をベースにしたアプローチであったため、実際の現場とリンクしやすかったです。また、卒業生にどのように物理が身につけているのかというテーマは我々にとっては非常に有用なものであると感じました。

入試までの全体像をイメージ



普段一つ一つの問題をその都度解説するだけで手一杯な授業をしていましたが、「最終的にどうのことを教えきらなければならないか」という入試までの全体像をはっきりイメージできました。



指導書では見落としてしまう内容

教科書では平易な表現で、行間を説明するのにいつも苦労していますが、厳密な表現・解釈がそういうところにこそ求められていることがよく分かりました。市販の指導書では見落としてしまうところを捕えて勉強になりました。

これからの教育研究



歴史を比較することの大切さ

歴史総合講座

日本と世界各国それぞれの立場に立った歴史的事象の捉え方、歴史を比較することの大切さと難しさを感じました。視野を広げ視点をどこにおくかを意識したいと思います。

授業をイメージできました



ICT機器活用講座

ICTを活用した授業をイメージすることができ、表現の仕方を学ぶことができました。また、教員が活用するだけでなく、生徒が主体的にICTを活用することが重要だと痛感し、その方法もたいへん参考になりました。



「ICT機器活用講座」授業風景

予備学校の分析力



分析にかける情熱

多くの大学入試問題を深く研究されていて、分析にかける情熱に驚きました。また、教える側がおもしろいと思うことが学ぶ側に知識欲をもたせることを再認識できました。



期待していた以上のものでした

基本的な授業でありながら、飽きさせず、構造的・論理的な授業展開は期待していた以上のものでした。長年教師をやっていますが、新鮮に授業を楽しみました。また、参加します。



共通テストに向けて

共通テストに向けて、こういった能力が求められているのか、それが試行調査において具体的にどのような設問を通して試されているのかを体系的に説明して下さり、大変参考になりました。改めて国語の重要性も伝えられると考えました。



腑に落ちる説明の仕方

生徒たちの概念形成の発達段階に応じて、腑に落ちる説明の仕方を学びました。生徒が授業に臨む姿勢の作り方、常識として普段考えないことへの理由づけや捉え方など、指導法や問題選択なども含め、非常に有益な目からウロコの講座でした。



今後の見通しを概観できた

特別講座（大学入試改革に向けて）
刻々と変化する入試の歴史から現状、今後の見通しまでを概観できました。豊富な資料とポイントをおさえた説明・分析は、高校現場が今後必要とすることが+aで盛り込まれていて価値の高い内容でした。



まずは教師がアクティブに

授業の手法ややり方を変えることは勇気がいりますが、まずは教師がアクティブに声を出して、アクティブ・ラーニングを「する」より「加える」考えで取り組んでみます。

アクティブラーニング



体験型であったことがとてもよかったです

面接対策講座

大学が面接で求めている力が、私たちが育てたい生徒の姿だと分かりました。体験型であったこと、エビデンスに基づいたお話であったことがとてもよかったです。

